



元気とタイムリーな情報を提供する

# 五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2026年04月13日 第1263「週刊五十嵐レポート」

## 「差」

予約の取れない飲食店がある。3月にたまたまキャンセルが出たため、3人で会食。1人1万5千円、合計4万5千円。最初は高いお店だなと思っていたが、一つひとつ食事をしていくうちにこれで採算が合うのかという具合に、価値が価格を上回った。もう一度行きたくても予約はなかなか取れない。一方、お客が全く入らない店もある。

人を募集しているが、なかなか集まらない。ある社長は、『販売員』という職種は人気がない。だから集まらない』という。疑問が残った。「地方店舗の採用で、東京レベルの給与にしたのか。同業者より1.3倍ほど高い給与で募集したのか。異業種合の好条件を参考にして募集したのか」。一方、募集に対して何倍の募集者が来る会社もある。この違いは何だろうか。

順序だてて考えていく。いい人材を確保するには、好条件を提示する必要がある。まずは給与水準。高いに越したことはないが、低いと募集に来ない。給与水準を高めるには、会社の付加価値(粗利益)を高める必要がある。

ドラッカーに言葉を参考にすると、「事業とは、市場において知識という資源を経済価値に転換するプロセスである」。給与の源泉は付加価値、その付加価値の源泉は「知識」。知識が生産性向上に欠かせないものとされている。

では「知識」とは何か。「知識は、本の中にはない。本の中にあるものは情報である。知識とはそれらの情報を仕事や成果に結びつける能力である」。つまり、知識とは「能力」である。

「経済的な業績は、『差別化』の結果である。差別化の源泉、および事業の存続と成長の源泉は、企業の中の人たちが保有する『独自の知識』である」。「独自の知識」を錬磨した結果が組織の強みになる(卓越した知識)。

つまり、卓越した「能力」を持っていなければ、お客を集めることも人材を集めることもできない。小さな会社や中小企業では酷かもしれない。同業者と横並びであれば、顧客も来ないし、人も集まらない。だから「人が来ない」という。

人が困れば、生活保護がある。会社は困れば、退場してもらわなければならない。経営者の頭の中の意識と行動の継続が「差」をつけていく。この「微差」の違い。

ちょっと  
気になる出来事

4月9日日経夕刊、「中国製ヒト型ロボを教育」という記事。

人工知能のベンチャーが中国製のヒト型ロボットを日本に導入する。病院内の案内や夜間の見守りといった業務の担い手として仕事を教え込む。

AIで簡単にロボット制御プログラムを組み込めるようになり、「中国生まれ日本育ち」のロボット活用始まっている。ロボットの業務内容を定義して行動を設計する。病院の廊下や病室内は人間を基準に設計されているため、ヒト型であればそのまま移動や作業ができる。「日本のおもてなしや所作、細部へのこだわりを作りこんでいけば海外でも感動して利用してもらえる」。

ヒト型ロボでは米テスラやトヨタ自動車、川崎重工などが開発を手掛けるものの、市販には至っていない。現状手に入る二足歩行ロボは少なく、研究開発を進める上で当面は中国製を選択肢から外すことは難しい。日本は大きく水をあげられた。日本製が現れるのを待つか、中国製でいち早く入手して頭脳を作りこんでいくか。

AIを通して、自動運転、ヒト型ロボット、どんどん未来が開けていく。そこに日本はあるのか。



一口メモ  
知識

## 友人と交際 3

独立独歩の者は、人と強調しても付和雷同しないものだ。自分を見失っている小物たちはすぐに群れるが、強調することはしないもんさ。

子曰、君子和而不同 小人同而不和

「高校生が感動した『論語』」(祥伝社新書/佐久協)より

- 「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時～12時
- 「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5  
TEL03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

